

失敗知識活用研究会

文科省麾下に「失敗知識活用研究会」が、かつて設置され、さまざまな失敗に関する情報の活用を図ろうとする活動があった。その活動実体や集積された情報は、研究開発に従事する我々にとって決して無縁のことではなく、大いに活用することが有効であると考えられる。したがって、その設立趣旨などについて紹介し、インターネットでモニターをして勤務に役立てることを推奨する。

【設立の趣旨】

革新的な技術の開発や、新たな技術的知見の獲得は、多くの場合、失敗の積み重ねの上に成就されるものであり、失敗からは必ず学ぶものがある。

従って、失敗については、個別問題としての対応に終わることなく、今後の科学技術全体の発展のため、組織を超えて活かすことが重要である。

失敗の過程を検証し、そこから得られた知識（失敗知識）を社会的に共有することは、技術の信頼性を高めるために非常に有効であり、更に、失敗を未然に防ぐことにより社会全体の安全性の向上、社会コストの低減に繋がるものである。

また、知識の共有化に当たっては、近時、急速な進展を遂げている情報技術（IT）の活用が極めて効果的である。

ITを活用して、失敗知識を「欲しい人に、欲しいときに、欲しい形で」与えられるようにデータベース化するとともに、このような失敗知識をリスクマネジメント手法の開発や技術者教育等に活かすといった失敗知識の社会的共有、活用の在り方、いわば、「失敗学」を構築するために、「失敗知識活用研究会」を開催する。

【審議事項】

- 1 失敗情報の知識化、共有化及びその活用の在り方
- 2 その他

【研究会の構成】

固有名詞省略

産官学の有識者で構成し、必要に応じて委員の追加、委員以外の有識者から意見の聴取を行うものとされている。

【研究会の公開】

本研究会については、公開を原則とするが、情報の性質上、財産権の保護等慎重に取り扱わざるを得ない場合には非公開とする。

【事務局】

科学技術庁科学技術振興局が科学技術振興事業団科学技術情報事業本部の協力を得て処理するものとする。

ということで、2000年7月以来随時開催され2001年に答申がされた。その議事録などが文部科学省、審議会情報、調査研究協力者会議等で公開されている。

ちなみに、13.8.10の報告書は次のような内容（目次体系）であり、活動や提言の全貌が読みとれるので一読に値すると判断する。

【失敗知識活用研究会報告書：2001.08.10】

－失敗経験の積極的活用のために－

- 1 失敗経験の活用の意義について
 - 1-1 既存の知識体系の更新・再構築による創造的研究や技術革新の実現
 - 1-2 失敗経験から獲得される知識・データを共有・利用することによる失敗の未然防止
 - 1-3 創造力強化や問題解決能力向上のための組織学習と技術継承等の教育訓練のための実践的な学習資源
- 2 我が国において失敗経験の活用が進んでいない理由
 - 2-1 技術開発は設計や計画どおりになるとの強い認識に基づく、不十分なりスク認識とリスクへの挑戦の阻害
 - 2-2 失敗を顕在化させない体面重視の社会風潮
- 3 失敗の発生要因（細目省略）
- 4 失敗の取り扱いに関する提言
 - 4-1 技術はこれまでに得られた知識に基づくものであって限界があることから、未知領域においては「失敗は起こり得るもの」とする社会的認識の醸成
 - 4-2 失敗経験から新たな知識・データを獲得、共有、活用するための仕組みの構築
 - 4-3 失敗経験の積極的な活用を図るための研究開発
 - 4-4 技術教育における活用と社会的活用の促進

それを読むことで、次の認識を持つに至った。

「知識を生み出す失敗は、良い失敗である」という視点で諸兄の奮戦を見守りたい。

以上